

平成30年7月～9月期
地域産業経営動向調査
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関
堺商工会議所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数D I 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所800社（建設業200社・製造業200社・卸売業100社・小売業100社・サービス業200社）
3. 調査期間 平成30年9月14日（金）～平成30年9月28日（金）
4. 回収率

	調査対象数	回収数	回収率
建設業	200社	103社	51.5%
製造業	200社	100社	50.0%
卸売業	100社	50社	50.0%
小売業	100社	58社	58.0%
サービス業	200社	106社	53.0%
全産業	800社	417社	52.1%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- D I 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別のD I 値の意味について】

- 業況判断 … D I 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … D I 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … D I 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒今期状況 … D I 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … D I 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … D I 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒今期状況 … D I 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(7月～9月期)の前年同期比を見ると、雇用人員は横ばい、売上高は2期連続でやや悪化、業況判断は2期連続で悪化、採算及び資金繰りは悪化となった。

来期(10月～12月期)の予測については、業況判断及び雇用人員はやや改善、売上高は横ばい、採算及び資金繰りはやや悪化となっており、引き続き市内中小企業の動向については、注視していく必要がある。

1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は悪化。
($\Delta 3.4 \Rightarrow \Delta 7.0$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測。
($\Delta 7.0 \Rightarrow \Delta 4.3$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業及び小売業は改善。製造業及び卸売業は2期連続で悪化。サービス業は悪化。

・前年同期比の指標は悪化。



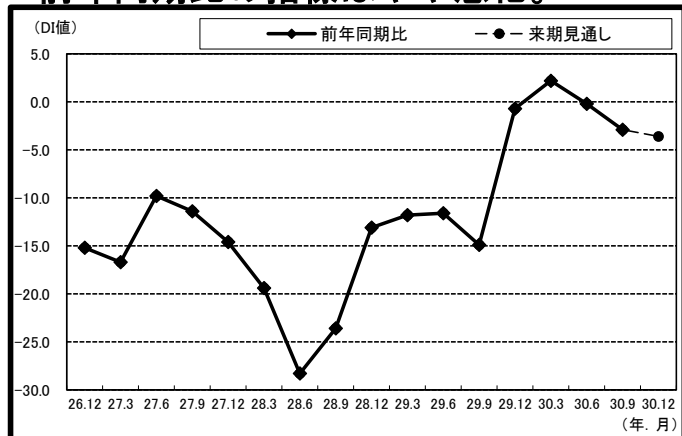
2. 売上高の動向

・前年同期比の指標はやや悪化。
($\Delta 0.2 \Rightarrow \Delta 2.9$)

・来期見通しの指標は横ばいと予測。
($\Delta 2.9 \Rightarrow \Delta 3.6$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業及び小売業は改善。製造業は2期連続で悪化。卸売業及びサービス業は悪化。

・前年同期比の指標はやや悪化。



3. 採算の動向

- ・前年同期比の指標は悪化。
($\Delta 1.0 \Rightarrow \Delta 5.0$)
- ・来期見通しの指標はやや悪化と予測。
($\Delta 5.0 \Rightarrow \Delta 7.7$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業及び小売業は改善。製造業は2期連続で悪化。卸売業及びサービス業は悪化。

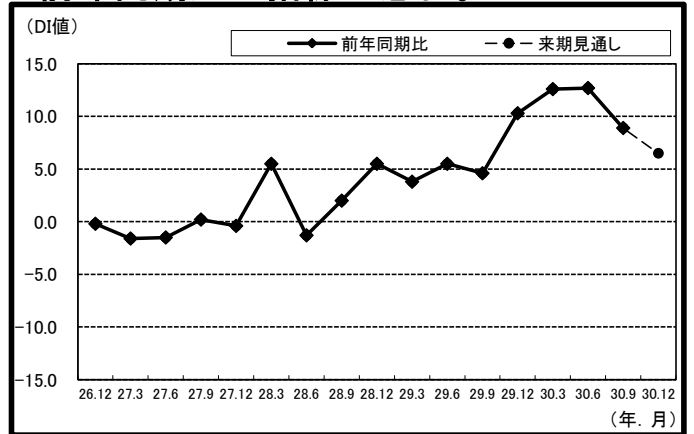
・前年同期比の指標は悪化。



4. 資金繰りの動向

- ・前年同期比の指標は悪化。
($12.7 \Rightarrow 8.9$)
- ・来期見通しの指標はやや悪化と予測。
($8.9 \Rightarrow 6.5$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、製造業は改善。小売業はやや改善。建設業はやや悪化。卸売業及びサービス業は悪化。

・前年同期比の指標は悪化。



5. 雇用人員の動向

- ・前年同期比の指標は横ばい。
($0.0 \Rightarrow 0.7$)
- ・来期見通しの指標はやや改善と予測。
($0.7 \Rightarrow 1.7$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、サービス業は改善。製造業はやや改善。卸売業は2期連続で横ばい。建設業は横ばい。小売業はやや悪化。

・前年同期比の指標は横ばい。

